平成18年度　教師海外研修（派遣国：　サモア　）実践報告書

１．タイトル　サモアってどんな国？

２．氏名　中山　剛

学校名　茨木市立玉櫛小学校　担当教科　全教科

３．実践教科　総合　時間数　２時間

４．対象生徒・学年　５年　対象人数　３２人

５．カリキュラム案

（１）実践の目的

・日本と他の国との違いを知り、自分自身の在り方や生活について考えさせる。

・海外で活躍している日本人がたくさんいることを知り、学習に対する意欲付けを図る。

日本と他の国の違うところをどうとらえるか、そこが課題になる。違いを「変わっている」「かわいそうだ」と受け取るのか、「おもしろい」「ぼくもがんばろう」と受け取るのかで、その人の人間関係、もしくは人生そのものに大きな差が出でくるだろう。その国の生活や習慣を知るだけにとどまるのではなく、違いを認めようとする態度を養い、自分自身の在り方や自分の生活を見直すきっかけとなればと考える。

また、海外で活躍する日本人がたくさんいるということを知り、これからの学習に対する意欲付けを図りたい。そして、世界中の人々がお互いに助け合って生きていくことが必要だということを感じさせたい。

（２）授業の構成案

時限･テーマ･ねらい	方法･内容	使用教材
１限目 テーマ：サモアを知る ねらい：導入のためサモアを知り興味を持たせること。	(1) フォトランゲージでサモアの人々の生活を議論しあう。 (2) 地図帳でサモアの位置を確認する	・サモアで収集した写真 ※資料１
２限目 テーマ：感じたことを交流する ねらい：これからの自分の在り方について考えさせる。	(1) パワーポイントでサモアの人々の生活での工夫や問題点を考える。 (2) 今の自分達にできることを考え、ワークシートに書き込む。	・パワーポイント ※資料２ ・ワークシート ※資料３

６．教材について

サモアでたくさんのものを見て、食べて、触れて、聴いて、そしてたくさんのサモアの心を感じ、充実した研修だったなぁと満足感に浸りながらも、余りある情報の中から子ども達に一体何を伝えればいいのだろうと頭を抱える日々が続きました。小学校５年生に伝えるのだから、シンプルかつダイレクトで、メッセージ性のある教材を作ろうと思い、まず初めに私自身がサモアで感じたこと・学んだことをテーマごとにまとめました。その中からこれから子ども達が生活していく中で大切にしていってもらいたいと思うものを３つに絞り、それらを中心にパワーポイントでの教材作りを始めました。

子ども達に伝えたい３つのこと

○ 勉強できるって、幸せなこと

日々の指導の中で、私は「当たり前のことに感謝しよう」という言葉を何度も口にします。それは、物的なものから人間関係的なものまですべてにおいてです。今回、サモアでは教科書は交代で使っているということから、世界中には勉強したくてもできない子どもがたくさんいるということを伝えたいと思いました。当たり前のことが当たり前にできない人がいることを知り、勉強が嫌いでしたくないって思っていた自分を改め、勉強するということを前向きに考えられるようになっていってもらいたいと考えました。

○ たくさんの人が、海の向こうで活やくしていること

サモアでは、教育、環境、栽培、漁業、医療などいろんな分野で、日本の技術が生かされているということを伝え、今後の学習の意欲付けを図ろうと思いました。「なぜ勉強しないといけないの？」という疑問を抱く子どもも少なくありません。世界には日本など先進国の技術を必要としている国がたくさんあるってことを知り、世界中の人々が助け合って生きているということを実感してもらいたいと考えました。

○人を思いやることの素晴らしさ

国語の説明文教材「マザーテレサ」という単元で、「貧しい人は美しい」というテレサの言葉が子ども達の心に印象強く残っており、その言葉に結びつける意味でも、サモアの人々の心の温かさを伝えようと思いました。ホームステイ先は決して裕福といえる家庭ではなかったにもかかわらず、私を喜ばせるためにたくさんの手料理をごちそうしてくれたこと、バスの座席が満席の時には立っている人に自分の膝に座るように声を掛けるサモアのマナーのことなど、物が豊かな日本では失われつつある「思いやり」をクローズアップし、「サモアは貧しい国」という子ども達のイメージを変えようと考えました。ぜいたくなくらしができなくとも、人を思いやる心があれば幸せに生きていけるってことを感じ取ってもらいたいと思いました。

７．授業について

パワーポイントを使用したことやクイズ番組形式にしたこともあり、子ども達はサモアを知れるということに興味津々で、たくさんの意見や考えが飛び交う活発な授業となった。

８．児童の反応

子ども達にとっては新しい発見の連続であったが、単にそれだけではなく、日本と比較した発言や、自分たちのこれまでの学習や生活と結び付けた発言が多くあり、様々な広がりがあった。私が抱えていた「単なる一問一答形式のクイズになるのではないか」という不安はすぐに払拭された。

９．児童の感想

- 今まで勉強はいやだと思っていたけど、これからは違う感じ方で勉強をしたいです。
- 貧しい国を助けることをしたいと思いました。たとえ小さなことであっても大勢の人が心がけることで世界の困っている人々を助けることができると思いました。
- サモアのいたるところで日本人が活躍しているということが分かった。ぼくも将来サモアに行って、いろんなことを学びたいです。そして、日本のことも教えたいです。
- 大きくなったら外国にいってボランティアをしてみたいです。まだ、知らないことがいっぱいあるので、色々な国に行って学びたいです。
- 男の人がスカートのようなものをはいていて、最初は変だと思ったけど、それがサモアの文化だということが分かった。違う国のことを勉強することは自分達にとってすごくためになることだと思いました。
- バスの中で知らない人の膝に座るということを聞いて、サモアでは知らない人でも友達みたいに仲良くできてすごいなと思いました。きっと心が優しいんだと思います。私もサモアの人みたいに優しい心が持てるようになりたいと思いました。
- テレサが言った「貧しい人は美しい」というのはこういうことなんだなと感じました。
  私もサモアに行って人の役に立つことをしてみたいです。

１０．所感

これまで、国際理解とは、ただ漠然とその国の生活や文化を知ることだとしか考えていませんでした。また、その教育を通して、子ども達をどんな人間に育てたいのかという明確なビジョンを持てていませんでした。

しかし、この研修に参加したことで、国際理解とは、単に国と国の間というものではなく、人と人の間にも存在するのだとわかりました。そして、その人と人との異文化を理解することで、「自分に何ができるか」を考えていくことこそが国際感覚を養うということなのだと感じました。

子ども達にとって、自分の国や生活、そして自分自身のあり方について考えるきっかけとなった今回の授業を単なる投げ込み教材として終えるのではなく、子ども達が学んだことや感じたことを今後の授業や学級経営に結びつけ、国際感覚を養う指導を継続的に行っていくことが大切だと感じました。

サモアってどんな国？

名前（　　）

１．１枚の写真からサモアとはどんな国か想像しよう

・写真をみて気付いたこと

・サモアという国を想像してみよう

３．大きな鉄の物体、これは何に使うのでしょう？

４．この男性は、ある目的のために日本からサモアに来ました。さて、その目的とは何でしょう？

5．サモアの主食は次のうちどれでしょう？

A.　米　B.　魚　C. パン　D.　イモ　E.　とり肉

6．このポスターは何をよびかけているのでしょう？

よびかける理由も書こう。

よびかけ

理由

★感じたこと・学んだこと